

### How do you show whom what?

研究推進部 丹生憲一

9月23日(水)の丹BAL1は小川教育研究所の小川周平先生に「伝わる『発信力』」と題して、1組ではポスターセッション、2~6組は動画・PRポスターを作る際の基本的な考え方、作り方についてお話していただきました。

「発信の基本」は、「何のために発信しようとするのか」「目的を忘れない」ことが大切です。パワーポイントを用いたプレゼンで、アニメーションだけに凝ってみたり、テレビコマーシャルでも、ストーリーに凝りすぎた結果、何のCMかわからなかったり…「基本」でありながら「目的を忘れない」のは難しいことです。

「誰に、何を、どのように」伝えるか考えることも大切です。発信の対象がぼやけると誰にも届かない。「丹波市に住む16歳の高校生で、国公立大学を目指す、理系の偏差値51程度の男子生徒対象」…と絞り込んでいくと、それに該当しない人を含めて「針の先のように心に刺さる」のだとおっしゃいました。誰か一人を思い浮かべて、発信方法を考えましょう。

研究を進めて色々なことを知ると、あれもこれも伝えたいものですが、情報を絞って「何を話さないか」を考えることが大切。ポスターセッション・動画・PRポスターに共通事項として、「作り方」については「内容」「見た目」のバランスを強調されていました。

1組対象のポスターセッションでは、「タイトル」「見出し」「詳細」が明確で、「主張」「理由・具体例」「結論」の筋が通っていること、一瞬で目を引く「見た目(レイアウト・色使い)」が大切だとおっしゃいました。具体的に言うと、読む順番がわかるように分けたり、数字を振ったりする。最大3色までにして、見出しの色は統一する。写真、図、グラフ、絵を効果的に用いる。文字の大きさは、タイトルは5m、見出しは3m、詳細は1m離れても見える大きさにしておく。字体はゴシック。…具体的で、わかりやすいアドバイスでした。

2~6組には、どの手段を用いるにしても、「とにかく作ってみる」そこから、制作⇒修正を繰り返すのだということを強調されました。最後に「動画を作る前には、絵コンテを作成する」「ポスターを描き始める前に、しっかりレイアウトを決める」ということが付け加えられています。実際に他の学校で作られたポスターや、業者が作った作品を例に挙げて、見習うべき良い点や改めるべき点の解説もしていただきました。

聴いていて、普段、教壇に立っている私も「発信」する側の一人として、考えさせられることが多くありました。「この授業の目的は何か?」「誰を対象にこの問いを立てるのか?」「どのように、授業を展開するのか?」…そんな設計図を、常に描き換えていくことが大切だと感じています。…「3回フラれたが、アタックし続けて結婚した」というエピソードや、「RADWIMPSのチケット、初日と最終日が当たったのに、コロナの影響で行けなかった」という掴みが印象的過ぎて、肝心なことを聞き洩らしていないか心配ですが…。

来週は「丹波の魅力のおすそ分け」第二弾。1組の人たちは中間発表をしてもらいます。2~6組の人たちは、先生方と相談して、いよいよ発信に向けて動き出します。このタイミングで講義をしていただけて良かったですね。



### 探究Ⅱ 丹波市市民プラザへの訪問

2年1組担任 松山典章

高齢者について研究する生徒が、高齢者の方たちがどのような活動をされているかの情報を得るために、市役所市民活動課の課長さんにコンタクトをとりました。課長さんと市民プラザから説明していただくことになり、8月21日にゆめタウン内にある市民プラザを訪問させていただきました。課長さんからは、行政の市民活動課が市民のどのような部分にかかわっているかの説明を受け、必要なデータを提供していただけることになりました。市民プラザからは、社会福祉協議会の行っている「くらし応援隊養成講座」の案内をいただき、ちょうどその日が探究の授業の日だったので、参加することにしました。くらし応援隊では、高齢の方が生活を続けるために、部屋の掃除や買い物等、日常生活を支援する活動をされています。この養成講座の参加者には割と高齢の方もおられ、持っておられる力を他のだれかのために使っておられることが分かりました。市民プラザでは、このようにあらゆることに対して市民の方の相談に乗ってもらえる体制ができており、探究活動の中でも聞きたい情報、調べたい事柄の調べ方等、親身になって答えていただけます。また柏原高校の探究の発表の機会も、市民プラザでつくすることも可能であることを提案いただきました。探究活動の中から出てきた提案を聞いてみたいという方や、高校生のアイデアを必要としている、または高校生の力を借りたいという方とつないでいただくことで、学習もより実のあるものになり、市民の方にも喜んでもらえることになる可能性を感じました。



### 丹 BAL 台湾

9月24日(木)の午前中に、台湾・桃園にある治平高級中学校(高校)の林(リン)先生とオンライン交流について、zoom会議を行いました。治平高校の生徒数は900人。外国語として日本語と英語を教えられているそうです。今回の交流では、治平の生徒たちに、日本語で(!)台北、桃園について、台湾のグルメや学校紹介をしてもらえることになりました。そのお返しに、柏原高校からも各クラス2名ずつ出て、兵庫県や丹波市について、丹波市のグルメ、柏原高校について…紹介してもらおうと思っています。今回は「日本語で」のやりとりです。

11月には台南第一高級中学とオンライン交流を計画中です。こちらは、身の回りのことを紹介する動画を「英語で」作成し、台湾の高校生に見てもらいます。台湾の高校生が作った紹介動画も見て、お互いにその動画について話し合えればと考えています。双方とも初めての試みです。詳細は未定ですが、校内のネット環境も整えてもらっていますので、修学旅行に行かなくても、有意義な交流ができるように準備を進めていきます。

You Tubeを観るのが好きな人は、「台湾修学旅行アカデミーby SNET 台湾」の視聴をお勧めします。現在、第1回「台湾とは何か」～第5回「台湾の経済」までそろっています。一本が、30分程度で、現役高校生がオンラインで専門家の先生からお話を聞くという形式です。「台湾とは何か」のおさらいにも最適です。…または、「治平高中」と検索すると「魅力治平」など、治平高校で繰り広げられる凄いパフォーマンスが見られますよ。